

● 世界一幸せな国における高齢者福祉について

団員 角田 敏郎

今回の視察において、ドラウエア・コムーネにある老人福祉施設ヴィダゴーを訪問し、私が担当するデンマークの高齢福祉について視察の報告をする。

1. デンマークについて

高福祉国家のデンマークは、人々に幸福感を与える美しい国として名高い。国の責任において、すべての国民の生活を保障し、医療や福祉、教育は無料であるうえ、失業時には返済義務のない生活支援金が支給されるなど、多岐にわたる生活保障を行っている。また、高齢期の安定的な住環境の提供も実施している。但し一方では、所得の半分以上が税金として徴収されるほか、消費税率は25%で、国民の租税負担率は70%と世界最高の水準である。また、課題は人口構成の変化による影響、すなわち高齢化問題で、訪問したドラウエアでは高齢化率は23%に達している。コムーネとは、市のような基礎自治体でドラウエアの人口は、約14,000人。デンマークでは、2007年に実施された制度改革により98のコムーネと5つの広域な行政体レギオンに統廃合が行われた。レギオンの所管業務は極めて小さく、地域のことはコムーネが担う。但し、福祉や教育等に関しては地域で格差が出ないように制度化されている。

2. 老人福祉施設の歴史



(利用者委員会のハンナさんから説明)

福祉は、100年以上前、教会から始まったとのことである。日本では介護型高齢者住宅にあたるプライエボーリと呼ばれる全て個室の公的な高齢者住宅や介護サービスを選べるのが特徴で、状況に応じて65歳以下でも入居できる。かつては「プライエム」という介護付き老人ホームが一般的だったが、

画一的な介護から刺激のない生活になり生きがいの喪失が問題となり、1988年以降、法改正によってプライエボーリが生まれた。自治体の審査で必要とみなされれば家族や青年も入居できることが法律で保障され、また、収入に応じて利用料の補助がある。

3. 老人福祉施設ヴィダゴー



(アクティビティセンターロゴマーク)

ヴィダゴーは、サービスセンター(アクティビティセンター、ホームヘルプ、デイホーム、ショートステイ、理学・作業療法等)、高齢者住宅、ファミリー住居、青少年住居などの空間があり、全体として高齢者福祉サービスの地域拠点となっている。今回見学したのは「在宅で元気に」を目標とするアクティビティセンターで、

予防を目的とする元気な高齢者の支援活動のための施設部分である。

テニス、パソコン操作、手芸やダンスなど70種類ものアクティビティーがあり、一週間に約1,200名が利用している。さほど大規模な施設というわけではないが、カフェも併設していて居心地がよく、利用者は安く食事ができるとのことであった。



(手芸を楽しむ方と交流)

運営は、利用者から選出される自治委員と事務処理の職員1名で構成される利用者委員会が行うが、適切な運営がなされているか、月1回、市が立会いチェックする。利用者のお世話は、年金生活者による70名ものボランティアが行っており、その延べ時間は年間約16,000時間にもなる。

利用者は、「健康維持と仲間づくりが町の中心地で出来ることが幸せだ。」と「世界一幸せな国」に満足されていた。

4. 所見

高負担高福祉を背景に、大胆な福祉制度改革を行い現在のプライエボーリへと転換してきたデンマークの意思決定力と実行力に感銘を受けた。

また、コムーネ（市のような基礎自治体）への権限と財源の移譲がたいへん進んでおり、地域の実情に応じた密着型の福祉サービスが提供されている。魅力ある松山を具現化していくためには、地方創生の福祉施策は重要だと考える。



（施設内のカフェの様子）

さらに、この施設で大変感銘を受けた今後の日本の高齢者福祉に大きな示唆を与えられる取り組みであるが、利用者の自治で運営されていて、職員は施設長のみ。職員以外は、政治家も全てボランティアで関わっているとのこと。元気な高齢者のための複合施設は介護予防を目的に、これから日本でももっと必要になると考える。利用者の自治とボランティアで運営が継続できていることにデンマークという国の豊かさと人間性を感じることであった視察であった。

今回の視察で得た経験は、今後の議員活動に生かしていきたいと思う。